



漁港施設の耐震・耐津波・耐浪化等の対策【農林水産省】

施策概要

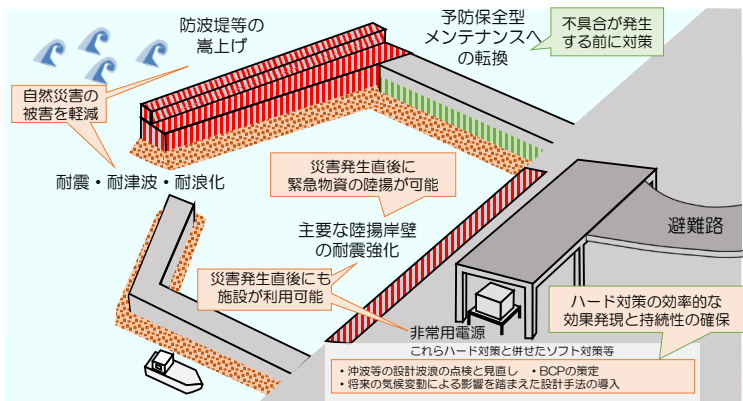
大規模地震・津波を想定した拠点漁港における防波堤・岸壁等の耐震・耐津波化、台風・低気圧を想定した防波堤等の耐浪化、越波対策、浸水対策、防風対策等を実施

効果

津波や高潮による人命・財産の被害を最小化するとともに、被災後の水産業の早期回復を実現

全国的な対策と効果

対策 水産物の流通拠点となる漁港及び災害発生時に救援活動、物資輸送等の拠点となる漁港等において、地震・津波に対する主要施設の安全性を確保（漁港45か所に、「粘り強い構造」の防波堤整備等を実施）



5か年加速化対策の効果

▶ 地震・津波に対する主要施設の安全性が確保された割合について、全国で
12%(令和元年度)から
37%(令和6年度)に向上

漁港施設の整備による台風時の被害漁船数の変化

宮崎県川南漁港 11隻 (平成30年台風24号) → 2隻(9隻減) (令和4年台風14号)

漁港施設の整備による堤内地浸水面積の変化

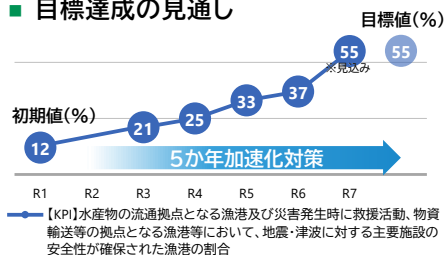
和歌山県串本漁港 95.5ha → 88.4ha(約7.1ha減)

■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
230億円	230億円	230億円
R6	R7*	累計*
260億円	260億円	1,210億円
	* 緊急防災枠を含めると、280億円	* 緊急防災枠を含めると、1,230億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

■ 目標達成の見通し



効果発揮事例

防波堤や防波護岸等の整備により、越波を軽減し漁船被害を回避する



宮崎県



宮崎県児湯郡川南町



水産生産基盤整備事業(川南地区)

■ 対策前

港内へ高波の進入



越波による浸水(平成23年台風12号)



■ 対策後

北防波護岸(改良、かさ上げ)



防波堤(新設、粘り強い化)



■ 事業費

25億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)5億円)

■ 事業の背景(地域の課題)

川南漁港は、宮崎県の中央部に位置する日向灘に面した地域の拠点漁港であり、近年はまぐろ延縄漁業への転業が進み、漁船の大型化が進んでいる地域です。当該漁港は、平成30年の台風24号の際に越波により多くの漁船が被害を受けました。また、南海トラフ地震の際には津波による被害を受けることが予測される地域であり、これら災害リスクへの対応力の強化が課題となっていました。

■ 事業の内容

激甚化する台風・低気圧等による越波・高波から漁港内及び漁港背後地の被害を軽減するため、防波堤や防波護岸の天端高を5.5mから7.0mまで高上げする整備を実施しました。



■ 効果

防波堤や防波護岸の整備により、台風時の越波が軽減でき、港内への波浪進入が抑えられます。令和4年台風14号では、平成30年台風24号と比較し、漁船避難係留時の港内の静穏性が向上し、漁船被害が大幅に軽減しました。

平成30年台風24号(最大瞬間風速37.9m/s)
漁船被害11隻(うち小型船8隻、中型船3隻)

令和4年台風14号(最大瞬間風速36.8m/s)
漁船被害2隻(小型船)